

令和5年度 第2回学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年9月12日（火）14時20分から16時15分まで
- 2 開催場所 和田小学校 視聴覚室
- 3 出席委員 齋藤 博、鈴木 滋芳、高橋 靖博、林 實、神谷 みち子、
箕浦 利弘、山内 慶一
- 4 欠席委員 安藤 さゆり
- 5 オブザーバー 西澤 幸二郎（浜松市天竜協働センター長）
- 6 学 校 横井 靖二（校長）、岡本 綾子（教頭）、平本 智之（主幹教諭）、
伊藤 裕美（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 裕美

10 議長の選出

司会から、議長の選出について高橋委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 授業についての意見交換
- (2) 今後の学校運営について ～1学期教育課程アンケート結果をもとに～

12 会議記録

司会から、委員過半数の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。また、前回協議の学校運営協議会の今年度の自己目標については、「学校の教育活動がより充実するように、活発な議論を行う」とすることで全員の意向を確認し、決定した。また、事前に会議資料を配付していたため、欠席の安藤委員からの意見書があり、議長が代読した。

(1) 授業についての意見交換

会議前に授業参観を行い、それについて意見交換した。

- ・学校全体が落ち着いていて静かだった。活発さがもう少しあっても良いのではないかと感じた。タブレットを使用していることと関係があるのだろうか。（齋藤委員）
⇒タブレットを使用することで、児童同士の意見交換がオンライン上でできるようになっている。手を挙げて意見を発言するのが苦手な児童も、オンライン上なら気負わずに発信できるようになったという利点もある。（校長）
- ・全体的に落ち着いて、教員と児童が一体となって授業が進んでいると感じた。教員がタブレットや拡大コピー等の教材をしっかりと準備をしていて、子供たちがよく集中していた。読み聞かせのボランティアの際もとても集中して静かに聞くことができている

(神谷委員)

- ・教員が児童を惹きつける工夫をしていて、児童が落ち着いて授業に集中できていた。ほとんどの児童が積極的に話し合いに参加していて活気のある教室も見られた(鈴木委員)
- ・夏休みの課題の発明工夫、感想文や新聞や俳句等様々な児童の作品を見られて、子供の感性を肌で感じる事ができて良かった。(箕浦委員)
- ・教室掲示の2年生の絵が色彩豊かで素晴らしかった。4年生の授業では、タブレットを活用しながら、児童同士が席を立てて自発的に教えあい、授業が活発に進んでいた。

(高橋委員)

(2) 今後の学校運営について ～1学期教育課程アンケート結果について～

1学期教育課程アンケート結果(別紙参照)をもとに主幹教諭から①全国学力・学習状況調査、②学校生活アンケートの結果についての報告があり、それについて意見交換をした。

① 全国学力・学習状況調査について

- ・思考を伴う記述問題について、無回答が多かったことを受けて、今年度の6年生の特徴をどのように捉えているのか知りたい。(齋藤委員)
⇒今年度の6年生は、全体としての雰囲気控えめで慎重になっている。昨年の静岡県学力調査の結果では県平均を下回っており、そこから基礎基本の定着に力を入れてきた。そのことが今回の結果に結びついたと感じている。(校長)
- ・新聞報道を見て、平均点を上回っていたので、日ごろの教員の努力が実を結んで良かったと感じた。(神谷委員)
- ・実際に問題を見て、問題文を読み解く力や、自分の考えを文章化させることが求められていると感じた。個々がどこでつまづいているのかを掌握し、それに沿った指導を進めることが目的とされているため、今回の結果を生かした指導を進めて欲しい。(林委員)
- ・自分の意見をまとめて、発表するために、国語力の大切さを感じる。算数でも問題を読み解くためには国語力が必要で、本を読んだり自分の意見を誰かに伝えたりすることを日常的に行っていくことが生涯を通してとても大切だと感じている。(山内委員)
- ・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだ」と認識している子が100%であったことはとても重要な事であり、評価したい。(箕浦委員)

② 学校生活アンケートについて

<挨拶>

- ・自分が子供のころは、一年中集団登校をしていて、その際に他学年との挨拶や地域の見守りがあった。地域の大人から積極的に声をかけて顔見知りになり、子供に挨拶を浸透させていくことが必要だと感じる。(箕浦委員)
- ・校内で挨拶をしても返ってこない場面があった。(齋藤委員)
- ・最低限、「校内では知らない人にも挨拶、登下校時には知っている人には挨拶」する事ができると良い。(林委員)
- ・コロナでマスク生活が長くなり、知らない人と挨拶を交わしたり、話したりする機会が少なかったのも、戸惑いや恥ずかしさもあると思う。和田町の夏祭りや、出店をする自治会

の人々と明るく楽しそうに話す子供たちの様子を見ることができたので、こういった機会が増えれば、自然と挨拶ができるようになると思う。大人もよほどの知り合いでなければ、挨拶をしない人が多いと感じる。（安藤委員）

<学習・身支度等の習慣>

- ・子供としては準備ができていると思っても、結果忘れ物があったりする。どのように声を掛けたら良いのか悩んでいる。（山内委員）
- ・子供と大人の認識のズレは、あって当然であり、それをなくそうとするより、成長の過程だと捉えて温かく見守っていく事が大切だと感じる。（高橋委員）
- ・家庭だと「早くしなさい」「もう準備できたの？」等、やる気をなくすような言葉をかけてしまうが、失敗したり悩んだりする姿を、愛しみながら成長を褒めて喜んであげられる周りの大人の心のゆとりが必要だと思う。（安藤委員）

<体力づくり>

- ・二極化が進んでいると言われているが、実際に身近でも感じることもある。体力づくりをするのにも子供だけでは難しく、保護者の協力が必要な時代になっている。（齋藤委員）
- ・子供を少年団に入れたところ、土日だけでなくその他の日も運動が習慣化した。体力の向上は学校の中だけでは難しいと感じる。朝や休み時間等、学校での運動をする時間を今後大切にしたい。（高橋委員）
- ・報道で地域のスイミング教室との連携をしている学校があることを目にした。近隣のスポーツ施設や少年団と連携を図ってはどうか。（安藤委員）

① その他

- ・PTA活動について、少しずつ負担を減らす方向で進んでいるが、旗振りについてはPTA活動としてやっているのではないため、毎年意見は出ているが難しい問題である。
(山内委員)
- ・学校ブログを楽しみに見ている。（高橋委員）

(3) その他

◎学校ボランティアについて

2学期ボランティア活動の予定

ミシンのボランティアでは、教えて欲しいと子供たちからたくさんの手が挙がり、最後は子供達からの自主的なお礼も聞けて、とても充実した活動となった。地域の方や、自治会の方の協力にとっても助けられている。学校との連絡をうまくできるように工夫していきたい。今後はクラブ活動への参加も検討していきたい。（神谷CD）

◎諸連絡

教頭より、次回の学校運営協議会は11月9日に開催するとの報告があった。

以上